

人吉市立学校のあり方検討委員会 NEWS

ハイライト:

- ・第1回会議は令和7年7月24日(木)15時から行われ、委員19人が出席しました。
- ・委員長に八幡彩子氏(熊本大学大学院教授)が選任され、市長から諮問書が手渡されました。
- ・第1回会議は、本市の学校や児童生徒を取り巻く現状についての説明を中心に進められました。

会議次第

委嘱状交付

1. 開会 15:00
2. あいさつ
3. 委員長・副委員長選出
4. 諮問
5. 議事
6. その他
7. 閉会 16:10

あり方検討委員会委員

(敬称略)

八幡 彩子	熊本大学大学院教授
安達貴美子	元小学校長
小柿 勇	市内小学校長代表
松本 幸保	市内中学校長代表
加登住 亮	市保育園連盟代表
田中麻美子	市幼稚園連盟代表
吉田 肇	人吉東小保護者代表
村山 靖典	人吉西小保護者代表
山本誠一郎	東間小保護者代表
磯崎 竹雄	大畑小保護者代表
白木 真志	西瀬小保護者代表
鬼塚 貴臣	中原小保護者代表
藤田 智大	第一中保護者代表
永田 政司	第二中保護者代表
宮崎 正幸	第三中保護者代表
大平 和明	東校区町内会代表
城本 雄二	西校区町内会代表
川内昭一郎	東間校区町内会代表
竹田 博	西瀬校区町内会代表
尾曲 義秋	中原校区町内会代表
岡本伸一郎	校区公民館長代表
尾方 治則	民生児童委員協議会

人吉市の将来の学校のあり方について、検討が始まる

開会に先立ち、出席委員一人ひとりに松岡市長から委嘱状が交付されました。市長は「人口減少が進む中、学校はどうあるべきかを教育長と対話しているが、市民の皆様にも議論していただきたいとの思いからこの委員会を立ち上げた。子どもたちがよりよい環境でしっかりと育っていけるよう、皆様と力を合わせて地域を作っていきたいので、忌憚のない御意見を頂戴したい。」と挨拶。その後、委員長及び副委員長の選任が行われました。

委員長には熊本大学大学院教育学研究科教授の八幡彩子氏、副委員長には人吉球磨管内の小学校で校長を務められた安達貴美子氏が選出され、八幡委員長に市長から諮問書が手渡されました。そのあと始まった議事では、はじめに志波教育長が児童生徒の減少や学校を取り巻く現況に触れながら、あらためて委員に協議への協力をお願いし、学校教育課の古賀課長が、適切な教育に求められる学校規模や、児童生徒数及び学級数の推移、学校施設の現状、教育の現状と課題等について、資料を用いて説明しました。



学校のあり方検討委員会 第1回会議の様子

質疑では、委員から次のような質問や意見が出されました。

- ▶人吉市だけでなく近隣町村を含めた広域で考えることも視野に入れる必要があるのではないか。
- ▶国の農業政策の動向を見極めるなど、地域の将来の方向性を踏まえて検討することも大事だ。
- ▶生まれてくる子どもに関する対策も必要では？
- ▶市の関係部署の政策も情報として入れてほしい。
- ▶校区ごとにグループワークを行ってはどうか。

少子高齢化… 過疎化… 学校を取り巻く地域の課題は

一昨年(令和5年)、東間小学校が創立150周年を迎え、記念式典等が盛大に行われました。昨年は大畑小学校、今年に残る4小学校が同様に創立150周年を迎えました。本市の歴史の中で、各学校は、その時代を生きる子どもたちの数や社会情勢に応じる形で創設、移転、(学校名の)改称、統合・再編を繰り返し、現在に至っています。

現在、市内に小学校は6校、中学校は3校ありますが、今後ますます少子化が進むことが予測されるため、このままでは小学校は各学年1学級あるいは複式学級の小規模校が多くなる可能性があります。中学校の部活動では、競技によっては学校単独でのチーム編成が難しくなっています。

子どもたちは、集団の中で多種多様な考えに触

れながら自分を高め、自分の考えや目標を見出し成長していきます。激しく変化する現代の社会情勢の中、子どもたちの健やかな体と豊かな心を育み、確かな学力を身に付けさせるために学校はどうあるべきか。検討委員会では、本市の地理的条件だけでなく、地域性等を考慮しながら、学校の数や規模、所在地など検討すべき多くの課題について、地域の皆様とともに様々な視点で検討し、令和8年度末までに答申をまとめることとしています。

次の会議は10月下旬または11月上旬開催の予定です。各学校の児童生徒数の推移と今後の予測データをもとに、グループに分かれてワークショップ形式での協議を中心に行う予定です。